

## 岸田総理発言内容

(冒頭)

昨年、エルマウ・サミットで、我々G7首脳は、世界のインフラ投資ギャップを埋めるべく、様々な主体と連携し、5年間で最大6000億ドルの官民資金を世界のインフラ投資に動員していくことを表明した。

我々は、インフラ投資を通じ、パートナー国と共に、クリーンなエネルギーを広め、気候変動にも強い社会を作り、サプライチェーンを強化し、デジタル技術と交通インフラで人々をつなぎ、誰ひとり取り残さない社会の実現を目指す。さらに、こうした投資は、透明かつ公正な形で実施し、パートナー国の持続可能な開発に貢献する。

日本は、ベトナムやエジプトで風力発電所を建設し、インド、バングラデシュやフィリピンで、高速鉄道、地下鉄、港や港湾横断道路を整備する。さらに、気候変動に脆弱な国々への支援、食料安全保障、中小企業や女性への支援のために、JICAによる合計40億ドル規模の融資の枠を新たに設ける。

本日は、各国首脳のほか、世界有数の機関投資家や総合商社、国際開発金融機関の代表にも参加いただいた。ここにいる皆さんとともに、このパートナーシップを更に推進していく決意を新たにしたい。

(総括)

本日のサイドイベントには、民間をはじめ、多くの関係者が集結し、インフラ投資のための連携を示す象徴的なイベントとなった。

我が国は、5年間で650億ドル以上のインフラ支援と民間資金の動員に向けて、アジア、アフリカ、大洋州を含め世界各地でインフラ投資を進めてきている。

引き続き、皆さんと協力しながら、グローバル・インフラ投資パートナーシップの具体化を進め、質の高いインフラ投資が更に促進されるよう、取り組んでいきたい。

(了)